

会 議 録

平成23年7月19日調製

審議会等名	平成23年度 第1回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成23年6月30日(木) 午前10時00分～正午		
開催場所	三条市中央公民館 音楽視聴覚室	傍聴者	2人
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、石澤委員、岩田委員、岡村委員、佐藤委員、 関委員、高橋委員、長谷川委員、平山委員、松井委員、松永委員、 六原委員		
	事務局 宗村市民部長、金子生涯学習課長、鶴巻課長補佐、長谷川係長、 田村係長、勝山主任		
欠席者	五十嵐委員		
議題	(1) 会長、副会長選出		
	(2) 荒沢遺跡出土品の三条市指定文化財の指定について		
	(3) 歴史的建造物総合調査報告について		
	ア 中心市街地歴史的建造物調査		
	イ 歴史的建造物総合詳細調査		
	(4) 京野原遺跡出土石棒調査報告について		
	(5) 平成22年度文化財関係事業報告について		
	(6) 平成23年度文化財関係事業計画について		
	(7) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について		
	(8) その他		
	1 市民部長 開会のあいさつ (以下、会長選出まで事務局による進行)		
	2 自己紹介		
	3 議題		
	(1) 会長、副会長選出		
事務局	会長について、委員の中から互選することとなっているので、推薦をお願いしたい。		
松井委員	会長に前会長の荒木委員を、副会長に前副会長の渡辺委員をお願いしたい。		
事務局	会長に荒木委員、副会長に渡辺委員をという声があったが、いかがか。 (一同拍手)		
事務局	では、荒木委員に会長を、副会長に渡辺委員をお願いしたい。		
荒木会長	会長就任あいさつ		
渡辺副会長	副会長就任あいさつ		
	(2) 荒沢遺跡出土品の三条市指定文化財の指定について		
荒木会長	事務局より説明願いたい。		

事務局	<p>荒沢遺跡出土品の市指定文化財の指定について、三条市教育委員会から三条市文化財保護審議会に諮問があったので審議いただきたい。</p> <p>荒沢遺跡出土品 1, 341 点は、下田郷資料館で所蔵されていて、所有者は三条市である。荒沢遺跡は下田地区の荒沢字朴ノ倉にあり、平成4年に県営広域営農団地農道整備に伴って発掘調査した旧石器時代、縄文時代草創期の遺跡である。良好な石器類が出土し、中でも旧石器時代の赤色顔料は、本州で唯一の出土であり、全国的にも注目されている。</p> <p>旧石器時代の石器類は 1, 324 点あり、ナイフ形石器、彫器、スクレイパーなどがある。編年指標となる杉久保型ナイフ形石器や神山型彫器が出土し、約 15,000 年前の後期旧石器時代後半の新潟県を代表する石器群である。また、赤色鉄石英の礫片は、これを加工して、祭祀などで使用したと想定される。合せて、赤色顔料を潰す磨石が出土している。旧石器時代の赤色顔料は、北海道の遺跡で確認されているが、本州では荒沢遺跡のみで確認されている。</p> <p>縄文時代草創期の石器は、尖頭器、スクレイパー等が 17 点出土している。中でも、黒曜石製尖頭器は、科学分析の結果、その産地が青森県の深浦とわかり、そこから持ち込まれた石器と考えられる。約 400 km 離れた地域との交流や交易が確認されたことになる。縄文時代草創期の遺跡は全国的に少なく、約 12,000 年前の石器群と推定している。</p> <p>以上のとおり、荒沢遺跡出土品は五十嵐川流域の当時の人たちの生活を知る上で大変重要であり、三条市を代表する考古資料として、保存・活用を行なっていく必要があると考えている。</p>
荒木会長	何か質問や意見はあるか。
松井委員	先日テレビで、外国の前期旧石器時代の洞窟や岩陰で顔料が出土している放送があったが、赤だけではなく意外と白が多く、古くから使用されていることに驚いた。荒沢遺跡出土品の赤色顔料も本州でここだけなので貴重と考える。
荒木会長	赤色のものは酸化鉄か。
松井委員	荒沢遺跡では鉄石英片でやっている。台石にのせて敲いたり、転がしたりして粉にする。縄文時代になると水銀朱なども使われる。
荒木会長	縄文時代草創期の遺跡には、阿賀町の室谷洞窟などがあるが、その遺跡からは、旧石器時代の遺物は出土していないのか。
松井委員	室谷洞窟は旧石器時代と縄文時代の境目にあり学問的にも難しいが、一応縄文時代草創期になっている。
荒木会長	荒沢遺跡から出土した旧石器時代の石器は大変貴重ということか。
松井委員	下田地区には旧石器時代の遺跡が多くあり、その中でも重要な遺跡の一つである。他にも御淵上遺跡など学問的にも注目される遺跡が下田地区には多くある。
荒木会長	五十嵐川流域は、旧石器時代の遺跡の宝庫ということか。
松井委員	五十嵐川流域には貴重な遺跡が数多く残っていて宝庫である。
佐藤委員	顔料に加工した赤色鉄石英礫片は、地元産か。

事務局	五十嵐川流域を石材調査した中では、鉄石英礫片が拾えるので地元産と考えている。縄文時代晩期の石鏃製造地の赤松遺跡が大谷地にあるが、赤色の石鏃が多く出土しているため、赤色の鉄石英は下田地区ではたくさん採集できるようだ。
佐藤委員	中国の敦煌で学芸員から聞いたが、現地で取れる顔料を硯のような道具ですり潰しているとのことであった。荒沢遺跡の磨石に赤色が付着しているが、これを受ける硯のような台石は発見されなかったのか。
事務局	大きな台石と考えられる石器も出土している。棒状の敲石も出土しているため、これらの道具を使用して、叩きつぶし、すり潰して顔料を製作したと推定している。
松井委員	縄文時代では中央がくぼんでいる石皿という石器があり、それに載せて丸い棒状の石で叩きながらすり潰す方法で、簡単に粉状になる。
荒木会長	諮問のあった荒沢遺跡出土品について、文化財保護審議会として指定することが適当であると答申してよいか。
	(一同拍手)
荒木会長	三条市指定文化財に指定することが適当であると答申する。
	(3) 歴史的建造物総合調査報告について ア 中心市街地歴史的建造物調査
荒木会長	中心市街地歴史的建造物調査報告について、説明はだれがするか。
事務局	調査を平山委員から実施していただいたので、平山委員から説明いただきたい。
平山委員	<p>三条市中心市街地歴史的建造物調査は、2年間で行った。調査は第一段階として北三条駅と五十嵐川、信濃川に囲まれた東西1Km、南北500mのエリアを対象にすべての建物を外見から見て、戦前の建物がどれくらいあるか調査を行った。その結果、250件余りの歴史的建造物が残っていた。三条は明治時代に数回の大火があり、累計すると4,000棟以上の家屋が火災にあっていて、平均すると1つの建物が3回ぐらい大火で燃えた計算になるので、大火後の明治中期以降の建物が多くなっている。</p> <p>三条は切妻妻入りの建物が非常に多い。また、入母屋造でせがい造のものがいくつか残っている。切妻妻入を基礎とし、屋根が高い建物で、屋根の軒の出を大きく立派に見せるためのものである。分布は大通り沿いを中心に、八幡小路周辺にもいくつかある。通りから見て、見栄えがするせがい造の建物を競って造ったのであろう。関東大震災以降の大正時代末ぐらいから昭和の初期に造られた建物である。おそらく、関東大震災後の復興特需で、三条の金物などが多数関東方面へ出荷され、江戸好みの帰り文化という形で、当時関東で見られたこのような入母屋の和風建築が入ってきたのではないかと推察される。入母屋妻入りのせがい造の建物が、戦前期の三条を中心とした県央地域の町家の一つの特徴である。</p> <p>ほかに、大正時代末ぐらいの建物に、妻面に扱首組を持つ町家がいくつかあり、これも時代的特徴を示すものと考えられる。また、妻面に幣串を有する町家も見られた。</p> <p>洋風建築もいくつかあり、医院の建物が多い。また、今は電気店の倉庫になっているが、計量器試験場の洋風建築の建物が残っていて、三条の金属加工業の発展と関係の深い建物で、三条の歴史そのものを物語る価値ある建物と考えられた。</p>

中心市街地の18%程度の建物が戦前の歴史的な建物であった。15%を越えると残存率が高いという話もあり、多い方だと思っている。それらの建物が地域全体に点在しているので、このような歴史的建造物を使って、まちづくりや活性化をどこからでもできる力をもっている地域だと思っている。

敷地は間口が狭く、奥行きが深い。片側に通り土間を造って、その反対側に部屋を何部屋か設けるといことが一般的な町家の間取りであった。通り土間は五十嵐川の上流側である東側に設けられている。東側に向けて棟を高くずらし、高窓を設け採光し、土間側から茶の間等の部屋に採光をしたと考えられる。これは各家が揃ってやることででき、バラバラだとできない。おそらく戦前の町並みは、中心市街地に高密度で町家が建つので、みんなで協力してお互い様ということで、このような東側に通り土間を配置したのと考えられる。

小路がたくさんあり、基本的には五十嵐川に通じるものが多くあって、戦前期は水汲みに行くためのものであった。佐藤小路だったと思うが、町家が没落して、通り土間が小路になったところがある。通り土間が小路になり、部屋があった部分が分割譲渡された。このように小路は、どこでも出現する可能性があり、町並みが変わっていく。非常に細い小路1本であるが、その道自体にも町並みの歴史を持っている。

第2段階として詳細調査を行った。外山虎松さんは、戦前の建物については、大崎浄水場建物を設計した長谷川氏によって造られた鉄筋コンクリートの素晴らしいものであったが、終戦直前に取壊しの命令により壊したものを、昭和27年に戦前のデザインをまねて作り直したものであった。さんきらくさんは今は焼肉屋だが、もともとは呉服屋であり、入母屋せがい造の非常に立派な建物である。小松酒店さんもそれと並んでいる入母屋せがい造の建物であり、お店にある大黒様に昭和4年上棟と書かれていた。丸井今井邸は、詳細な建築年代はわからなかった。昭和初期という話があるが、もう少し古く明治時代末ぐらいの建物であると考えている。加藤商店さんの蔵は、外観からみると大正時代末から昭和初期のデザインであるアールデコというものがみられるので、その頃のものと考えていたが、江戸時代末に造った建物を大正時代中期に裏から曳屋し、外観を改修したものであることがわかった。内部には和釘が使われていた。山田美術店さんも入母屋せがい造で、棟札があり、昭和9年と書いてあった。吉文字屋さんは、もともとは3階建の建物を、終戦直前に3階部分だけを取り壊した入母屋せがい造の建物である。つるがやさんも入母屋せがい造で、吹き抜けの高いチャノマがある。料亭若松さんは、各所に繊細なデザインがみられ、引き手金具にも色々なものがあつた。三条物産さんは、もともとは三条の特産品の一つであつた足袋を製造していて、大きな倉庫が残されている。広い使い勝手がある建物なので、活用について検討していただければと思う。

荒木会長

何か質問、意見はあるか。

渡辺副会長

せがい造は軒の見栄えを良くする手法だが、長野県などでうだつがあるが、そのようなものとの関係はあるのか。

平山委員

せがい造は、雪が深い地域で軒を多く出すための骨組みのようなもので、うだつは棟を支える木のことをいうことが多い。家の境の袖壁をうだつというところもある。

荒木会長	子供の頃に、深い軒に大根を干していたという風景をよく見た。曲尺の検定を市外に持って行くのは大変だということで、計量検定場が造られたと聞いていたが、その建物が残っていたとは知らなかった。土間がなぜ東側にあるかということだが、これが各家でバラバラだと隣の家と壁が重なって、隣の家の話し声が全部聞こえてしまうということもあったのではないか。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
	イ 歴史的建造物総合詳細調査
荒木会長	歴史的建造物総合詳細調査について、説明はだれがするか。
事務局	これも平山委員から調査していただいたので、平山委員から説明をお願いしたい。
平山委員	正覚寺山門、静照院釈迦堂、本成寺鐘楼、黒門、JR三条駅駅舎・油庫、嵐溪荘緑風館を調査した。正覚寺山門は与板城の城門であろうと言われていた。規模、平面と高さを見ると与板城の大手門といわれている与板別院にある門とほぼ匹敵するようなものである。もともと正覚寺山門は、三条西別院の表門としてあったといわれ、古写真にもある。与板城の中でも格の高い門であろうと思われ、八双金物が横、縦、木の継ぎ目のところにも打たれていて、大手門と同じぐらい非常に大切なところに建っていた門ではないかと考え、蔵の門だったのかもしれないと思った。与板に残っている大手門、切手門はいずれも長岡市指定文化財となっている。三条市指定文化財の候補の一つとして考えてもいいのではないか。静照院釈迦堂は、小規模ながら来歴として、本成寺の多宝塔のところにあったといわれている。年代を見るとときに、彫刻の絵様の模様で判断するが、非常に丸く綺麗に回っており、おそらく1850年より古い建物であろうと考えた。本成寺の火災の前にあった建物で、古い形をよく示している。本成寺鐘楼は、先ほどの絵様が太くてあまり丸くなっていないので、年代が下り18世紀の火災後に造られたものではないかと考えた。本成寺黒門は、お寺の門としては非常に材が太く、江戸時代中期まで遡ることができると思っている。三条駅駅舎は、鉄道が開通し明治時代末の国有化された直後ぐらいに造られたもので、現代も丁寧に使われている。和風の造りになっているが、おそらく弥彦に行ったり、本成寺に詣でるということで和風に造られたのであろう。国鉄の駅では奈良駅や長野駅などでみられ、その流れの一つかと思っている。まだ電気が通っていない時代にランプを使って灯火としたので、ランプや灯油を準備した油庫は、県内では三条駅も含めて4か所残っている。おそらく明治の40年代の建物と考えている。嵐溪荘緑風館の建物は、燕駅前にあった小川屋旅館の建物を移築したものである。古写真がいくつか残っていて、それと比較すると望楼があり非常によく当時の姿が残っている。ただし、敷地の関係で玄関の位置が変わっている。内部は、1階は改造を受けているが、2・3階の部屋は、当時の技術の造りを使って非常にレベルの高い部屋が造られている。おそらく昭和初期の建築と考えている。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
	(4) 京野原遺跡出土石棒調査報告について

荒木会長	京野原遺跡出土石棒調査報告について、説明はだれがするか。
事務局	松井委員から調査していただいたので、松井委員から説明いただきたい。
松井委員	<p>京野原遺跡は三条市荒沢に所在し、縄文時代後期と晩期の遺跡として知られている。この遺跡から出土した石棒は、江戸時代安政3年、1856年に出土したという古文書とともに地元の個人宅に伝えられている。石棒は完形の両頭石棒で、長さ58cmで、石材は黒色の粘板岩である。頭部の形は一方は笠形で、他方は亀頭形になっている。細長い石を敲いたり、磨いたりして製作されていると推定され、胴部の石の目の方向の大きな割れや亀頭形頭部の頭頂部の割れなどは縄文時代についての古い傷であり、赤色顔料が入り込んでいる。胴部中央に熱により変色したと考えられる灰色部分がある。現在の所有者の亡くなられた旦那さんの3代前の才助氏が執筆した文書が残されている。この文書には「安政三年夏、庚申の日、居屋鋪の内、子丑の間に柿の木在り、鍬先に異音有りて掘ること深からずして即ち之を出す」と書いてある。才助氏によってこの石棒が掘り出されたと考えられる。また才助氏の子、才蔵氏によって書かれた文書もある。才蔵氏の次の代の方の説明によると才助氏から聞いたことをそのまま才蔵氏が書いたと聞いている。才助氏とほぼ同様の内容だが、出土地点の様子、出土した深さなどが、詳しく付け加えられている。才助氏の文書をみたり、才助氏から直接聞いた当時の様子を明治11年に才蔵氏が書いたものと考えられる。石棒が残っていても、こういうはっきりとした文書が残っていることは非常に珍しい。</p> <p>この石棒は成興野型石棒と考えられる。成興野形石棒は頭部隆帯に文様が施されるものが多いとされるが、京野原遺跡の石棒は文様がないことが特筆される。成興野形石棒の完形例としては、県内では他に村上市元屋敷遺跡などの数例が知られているのみで完形は非常に数が少ない。また、両頭のもは京野原遺跡のもののみで貴重である。時期は、縄文時代後期から晩期の幅の中で考えたい。北海道の柏木B遺跡では成興野形石棒が土壙墓内から出土していて、石棒は墓に納められた副葬品の可能性が考えられる。才蔵氏の文書の中に、「なんと無く平常より少々土高く相成候（略）凡そ深さ壺尺程掘り出し」出土したと記載がある。他の遺跡から出土した石棒に赤色顔料が付着した例や破片で出土した例があり、葬送儀礼に係わるものと想定されていて、京野原遺跡の石棒も赤色顔料が付着し、それを被熱させる儀式が行われ、葬儀が行なわれたことが想定できる。石棒の使用例を考える上で重要な出土例と考えられる。また安政3年に石棒が出土した様子を記した古文書が2点残されており、発掘資料ではないが、出土状況を知ることができ、歴史的な価値が高いと考える。市内で遺跡出土品を記録した最も古い文書であり、石棒と合わせて文書についても保存されるべきと思う。以上のことから、京野原遺跡出土の石棒について、2点の文書とともに保存・活用を図る必要があり、三条市指定文化財として保護することが望まれる。</p>
荒木会長	<p>古文書の古い方は安政3年夏とあり、明治11年の方が安政3年5月となっているが、安政3年は旧暦なので、1、2、3月は春、4、5、6月は夏となっている。</p> <p>関委員にお聞きするが、農と書いてあるから、農業の方だと思うが、このような文書を書き記す能力があったものか。</p>
関委員	農ということで農民だと思うが、このような文書を書くことは十分できた。

松井委員	この遺物を初めてみたのは三条商業高校考古班で高校3年生の時だが、才蔵氏のお子さんと70歳ぐらいの方が、神棚に上げて大切に保管されていて、なかなか見せてもらえなかった。
石澤委員	このお宅は江戸時代は組頭であり、普段は農業をやっていた。かなり古くから下田に来たようである。才蔵氏のお孫さんと私が同級生で、遊びに行くと宝物があると聞いていたが、石棒は見せてもらえなかった。
荒木会長	他に質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
	(5) 平成22年度文化財関係事業報告について (6) 平成23年度文化財関係事業計画について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	平成22年度文化財関係事業報告であるが、文化財保護審議会は2回開催した。文化財指定は、本成寺多宝塔など3件を指定した。文化財調査・管理では、文化財総合調査や歴史的建造物詳細調査を行った。ふるさと記録事業では、『ふるさと三条』第19号を刊行した。文化財の公開・活用について、文化財めぐりを燕市と一緒にいき、漢学関係の史跡や記念館などを見学した。文化財講演会は、新しく指定された仏像をテーマに熊田由美子先生から講演をしていただき、125人の参加があった。 埋蔵文化財の調査は11件行い、埋蔵文化財の管理・活用について、燕三条遺跡展2010を燕市と合同で遺跡出土品の展示会を燕会場展、三条会場展として行った。その他に、縄文体験講座や遺跡体験出前講座などを行った。 平成23年度文化財関係事業計画であるが、文化財保護審議会は、2回予定している。文化財の調査・管理・活用では、新規事業のふるさと三条再発見調査として、三条の鍛冶の発祥、小路の名前の由来、胤合戦の歴史的な発祥について、専門研究者等にお問い合わせしながら調査を進めたい。埋蔵文化財の調査では、県道工事に伴う吉野屋遺跡発掘調査などがある。埋蔵文化財の管理・活用では、新潟県立歴史博物館秋季企画展「にいがたの土偶～発掘された新潟の歴史2011～」が県立歴史博物館で開催され、吉野屋遺跡出土の土偶、縄文土器などを展示することで一緒になって企画を進めている。歴史民俗産業資料館での遺跡展でも、吉野屋遺跡の土偶等と中心とした企画展を開催する。先ほど市指定文化財の答申をいただいた荒沢遺跡出土品について、「ナイフ形石器と赤の世界」として、地元の諸橋轍次記念館多目的ホールで企画展を開催する。縄文体験講座など市民を対象にした体験講座も行なっている。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
	(7) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	市内に所在する指定文化財以外の文化遺産について、保護が必要な物件を文化財保護審議会委員から推薦していただき、現在150物件をリストに掲載している。リストに掲載されていない物件について、保護処置が必要なものがあれば、調査表に記入し提出していただきたい。

荒木会長	何か質問、意見はあるか。
	(質疑、意見なし)
	(8) その他
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	平成23年度新潟県文化財指導者講習会が開催されるので、参加希望の委員はお知らせいただきたい。配布資料の『さんじょうむかしむかし物語』は、元図書館長の五十嵐稔さんが、図書館の子供向け広報紙に連載した三条の歴史をわかりやすく書いたものを今回1冊にまとめたもので、子供向けの歴史講座を行なう場合のテキストなどで活用していく予定である。
荒木会長	他に何かあるか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	これで閉会とする。

以上